

第4回 三田市環境審議会「(仮称) 生物多様性さんだ里山戦略」
策定検討部会 議事要旨

会議の名称	第4回 三田市環境審議会「(仮称) 生物多様性さんだ里山戦略」策定検討部会		
会議の日時	令和5年6月28日(水) 17:00~18:30		
会議の場所	三田市役所 2号庁舎 2201室		
出席した委員の氏名	石田弘明委員(環境審議会委員、策定検討部会長) 三橋弘宗委員(専門委員) 谷本卓弥委員(専門委員) 吉田滋弘委員(専門委員) 奥田 昇委員(専門委員) 八木 剛委員(専門委員) 山田敏雄委員(環境審議会市民委員)		
出席した庶務職員の職及び氏名	事務局	まちの再生部	本参事
		ゼロカーボンシティ推進室	辻下室長
		里山のまちづくり課	三谷課長、上田係長、岡野
		(公財)ひょうご環境創造協会(委託業者)	藤井、日野、諸井
傍聴人の人数	0名		
取材者の人数	0名		
内容	1 開会・あいさつ 里山のまちづくり課 三谷課長 2 市からの説明 3 その他 4 閉会		
会議の概要	「(仮称) 生物多様性さんだ里山戦略」策定について、資料に基づき説明を行い、それに対する質疑及び意見を伺った。		
公開・非公開の区分	公開		
使用した資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者名簿 ・座席表 ・資料1 今後の素案作成スケジュールについて ・資料2 素案改稿の要点と今後の編集作業について ・資料3 皿池湿原保全活動計画の評価 ・資料4 まちなか里山公園整備方針の評価 ・資料5 戦略素案 ・資料6 皿池湿原保全活動計画 ・資料7 まちなか里山公園整備方針 ・資料8 アンケート調査結果報告書 		

○協議内容

事務局	[資料 1]「今後の素案作成スケジュールについて」の説明
部会長	この件に関してご質問・ご意見等あればお願いしたい。
全委員	質疑・意見等なし。
事務局	[資料 2]「素案改稿の要点と今後の編集作業について」に基づき説明 [資料 3・4]「皿池湿原保全活動計画の評価」、「まちなかり山公園整備方針の評価」の概要を説明
部会長	ここまでの資料に関してご質問・ご意見等あればお願いしたい。
委員	計画ができた時点で、この策定検討部会は、一旦解散ということになると思う。本計画の計画期間は長いですが、今後、中間評価や進行状況进行评估するような委員会のようなものはされるのか。
事務局	今回は 2050 年までを踏まえた 2030 年までの計画としています。中間評価の令和 8 年度（2026 年度）に委員会等でご意見等いただいて見直し、評価いただく予定です。
委員	年次的にではなく、中間評価と最終評価しか行わないということか。
部会長	環境審議会で年次的な進捗状況の評価をしていくことになっているのではないか。
事務局	環境審議会では、毎年度、環境基本計画の評価を行い、議会に報告することになっています。（三田市議会の議決すべき事件等に関する条例第 4 条）本計画についてはそのようなチェックを行う仕組みはないため、任意に庁内で進捗状況をチェック・評価をしたうえで、ホームページ等で公開する形になります。
部会長	素案 2 頁に最終評価についての記載はないが、中間評価を令和 8 年度（2026 年度）にすることは記載がある。
委員	予算の都合などで大変であると思うが、中間と最終だけでは、その途中で重要な軌道修正があった場合、中間評価で気付いても遅いこともある。1 年に最低 1 回程度は小規模でも進行管理をしながら、出来る範囲で、何か問題があれば修正していくというのがいいだろう。2 回しか評価しないというのは少なすぎる。
事務局	ご意見を参考にし、できるだけ年に 1 回何らかの形での評価を検討します。計画の書き振りもいただいたご意見を踏まえて修正します。7 月の修正案へ向けて作業を進めていくので、いろいろご意見をお願いします。
部会長	計画の進行管理は重要なので、しっかりと検討いただき、必要に応じて適切な対応をしていただきたい。素案にも、第 4 章に進行管理があるが、具体的に書かれていないので、明記していただきたい。
部会長	これまで皆さんからいただいたご意見やアイデアは資料編に盛り込まれる方針とのことなので、漏れている内容などあれば、後ほどの協議の中でお願いしたい。ほかにご意見がなければ、次の協議事項である資料 5 の素案に関してと、アンケート調査結果最新版等の資料 6～8 について、これらを基に、どこからでも構わないのでご意見等いただきたい。なお、素案は事前にお手元にお送りしており、ご確認いただいているので、事務局からの説明は控えさせていただく。

委員	<p>非常にコンパクトになって読みやすくなり、良いのができている。意見としては3点ある。P4 遺伝子の多様性のゲンジボタルの例はすごく分かり易くて、良い例であると思う。前半の西日本と東日本の発光の間隔の違いは遺伝子の違いであるが、後半に記載されている三田市内の発生時期と見られる場所は、水温と気温が異なるからで、遺伝子の多様性ではないので、ここに記載するのは少し違う。他の具体例を挙げるなら、八木先生がご存じと思うので、相談されると良い。</p> <p>P10 の三田学園中高の取組例に関わり始めているが、この池にはコイがたくさんいて、そのコイをどうするかというところである。これは三田学園の取り組みとして行っているわけではない。現在、三田学園では竹林整備しているので、その例を取り上げたほうが良いのではないかな。</p> <p>P17 の外来種の記載は、最新の話題として、アメリカザリガニとクビアカツヤカミキリは大変良い例であるが、現実には、アライグマやヌートリアのほうが被害として出ていると思うがそれは載せないのか。</p>
部会長	<p>ご指摘はその通りで、アライグマとヌートリアは大きな問題なので、ぜひ取り上げてもらいたい。ほかもご意見をいただいた方向で修正願います。</p>
委員	<p>戦略と計画は全然違うものである。戦略はどういう大目標を掲げるかということで、以前のものは 30by30 やりますという趣旨で分かり易かった。新しい素案は大目標が何かぼやけて分かりにくくなっているのは残念だ。</p> <p>以前の無関心期な方という「期」という言い方が良かった。今は無関心期だが、今後関心を持っていこうということ、「無関心層」ではないところが上手く表現していると思っていた。無関心層に向けて読みやすいようにするというのであれば、第1章が「里山計画とは」で始まるのは読みにくい。前の素案であれば最初に三田市の生物多様性の特徴というので、自慢と課題が記載されており、1 頁目ですごく分かりやすかった。市の計画としては合っているのかもしれないが、この構成だと分かりにくい。</p>
部会長	<p>委員のおっしゃる通り、前回の案では「三田市の自然の特徴」が最初に記載してあり、大変分かりやすかったので、ご意見を踏まえてより良い形を検討いただきたい。</p>
委員	<p>P9 の生物多様性の保全の取組は、最初に環境保全団体の話が載っているが、ここは、最初に市がどんな取組をしているかを記載するのがいいのではないかな。</p>
部会長	<p>私もこれを読んで、市のこれまでの取組があまり書かれていないと感じた。そこは重要なポイントである。</p>
委員	<p>すごく読みやすくなったのは良かった。ただイメージしにくい所がある。</p> <p>P27 施策 1-5 の環境 DNA 調査については詳しく説明が書いてあって分かりやすいが、環境 DNA 分析手法を活用した「市民参加型による調査」というのは具体的に市民が何をするのかイメージできない。</p>
事務局	<p>環境 DNA 調査は、採水作業は非常に簡単であるため、地域に詳しい市民のみなさんに採水をご協力いただくというイメージです。</p>
委員	<p>P30 施策 3-2 の「従来の環境に負荷を与えるアウトドア利用」というのは、どういうことをイメージしているのか。具体的に何が環境に負荷を与えるのか。</p>
事務局	<p>例えばハイキング道で言えば、道以外の場所にむやみに立ち入って踏み荒らすといったことのないように整備して、自然と触れ合える場所を増やすということです。表現の不適切なところや意味の分かりにくい箇所は、ご意見を踏まえて修正します。修正版をご覧いただいて、またご意見をいただきます。</p>

委員	今回の素案は、読みやすく親しみやすいものになり、良かったと思う。この委員会を始め、最初の案を見たときはどうなるのかと心配になったが、事務局が委員のコメントをしっかりと反映してガバナンスのことをよく勉強されたので、すごく良い計画になったことは、敬意を表したいと思う。先ほども意見があったが、戦略という言葉を使うか使わないか別として、いきなり「里山計画とは」で始まるのは違和感がある。第3章の基本理念を最初に示したほうが、それを踏まえてどういう計画なのかと繋がる。普通は理念があり、ビジョンがあり、計画を立てていくという構造になるのではないかな。
部会長	前の構成とはずいぶん変わっている。このような構成は一般的な計画ではよくあって、大体こういう流れである。オーソドックスな構成でもいいが、あえて違う形にチャレンジできたらいいのではないかな。
委員	「里山計画とは」何のための計画なのか、分かりにくいので、繰り返しでもいいので、第3章にある全体像を最初に入れたほうが分かりやすいのではないかな。
部会長	構成については、前回の部会でもそのような意見があり、編集で順番を入れ替えたほうが読みやすくなるのではないかなということであった。今回の「里山計画とは」で始まるのは硬いので、何らかの工夫は必要である。
委員	P22、23は1頁に収まりきれないので、改頁したと思われるが、重要なところに余白が多いので、「次世代へつなぐ」イメージのイラストを入れるなど工夫が必要。P23の図も字ももう少し大きくしたほうが良い。
部会長	確かに余白が多い。以前の部会で、「生物多様性を守ることが、明るい未来の創出に繋がっていくんだよ」というイメージをこの戦略で打ち出せたら良いのでは、という意見があったが、そういうイメージが伝わるイラストや写真を余白部分に入れてもらうのが良いのでは。「どうして恵み豊かな自然を次世代へ繋いでいくのか」その重要性や必要性が直感的に分るようなものにしていくのが良い。基本理念を説明する文章も少し硬いので、もう少し工夫が必要である。
委員	P14に生物多様性の課題が4つに絞られて記載されているが、これに対して、P26の基本方針の施策と1対1で対応していないといけない。課題があって、それをどう解決するのか。かぶっているけれど、ぴたりと合うものがない。施策がほとんど「継続」か「拡充」になっていて、「新規」の施策は「顕彰制度」と「アウトドアの展開」で、課題と全く関係がないものである。読んでいて、ここに違和感がある。 例えば、P14(1)の「ため池の管理放棄」の話であれば、施策で「市では年に1度里山のまちづくり課が管理します」とか、その下の「環境保全型農業の推進」であれば、「農政課等と連携してこんな制度をつくります」とか、「ナラ枯れ」についても、「市内の団体にこんなことしてくれと言います」など、具体的な施策が立てられるはず。もう少し検討してはどうか。
事務局	100頁を超える素案を編集する作業過程で我々も気付いたところもあります。本日はいただいたご意見を踏まえて、7月末に向けて、可能な限り整理します。
部会長	以前の案には、資料編にこれまでの取組と今後進めていく新規の取組の一覧表があり、上手く整理されていたが、それが見当たらない。
事務局	現在進行形で整理しているので、それも含めて7月末までに部会長の監修のもとに作業を進めていきます。
委員	数値目標をあえて入れないということは、行政が市民に強制しないということで高く評価したい。一方で、今後、数値評価をしなくて良いということではない。しっかり市で評価することが必要。重要なのは、その変化を市民と共有することだ。自分たちがやっていることが、いかに三田市を良くしていることに繋がっているのかが分かるように、やっていくかどうか。先ほどの評価をどうするかとい

	う話と繋がる。そこはお考えなのか。
事務局	<p>数値目標の設定は、行政が市民に数値目標達成を押し付けていると受け取られかねないため見送ります。まず、この計画を作るということを最優先にさせていただきたいと考えます。</p> <p>評価方法については委員がおっしゃるとおり、評価するうえで、また市民と課題を共有するうえでも、数値で評価するのは分かりやすいため、数値の示し方などは計画の書き方の工夫の中で考えていきます。</p> <p>数値目標設定については、次回の見直しの時までに、市民と事業者、市の全員一緒にやらなくてはならないという意識の醸成をしたうえで、次回の計画見直し時期に市全体の目標として設定できれば良いと考えています。</p>
委員	<p>参考までに、私がずっと関わっている滋賀県の事例を話すと、マザーレイク 21プランの進行管理をするうえで、毎年開催しているびわコミ会議というのがある。活動されている方や関心のある方が一堂に会する場で、ここでは数値目標ではなく、琵琶湖の環境は今こうなっている、この数値がこう変化した、といういろんなモニタリング調査した結果を逐一市民の方と共有している。</p>
部会長	<p>数値目標の関連で、P31 に評価基準という項目があるが、これはまだ検討中のものか。記載してある 2 つの評価基準は確実に記載するお考えか。</p>
事務局	<p>ご意見をいただいたうえで検討するので、まだ決まったものではありません。例として挙げています。</p>
部会長	<p>ここに挙げている例は、評価数値を設定するのは難しそうである。何か具体的にお考えか。</p>
事務局	<p>確実なものはありませんが、一つでも取り組んでいきたいと考えています。</p>
部会長	<p>今は検討中ということであれば、次の書面開催のときには、もう少し具体化されて、各委員にご意見をもらえるようにしていただきたい。</p>
事務局	<p>ご意見を参考にさせていただいて、検討していきます。</p>
委員	<p>その評価基準の数値は、自然に関するものだけでなく、人間社会について、例えば参加する人数がどれだけ増えたか、意識がどう変化したかなど、この計画の本質的な部分をしっかり評価できるものにする。</p>
部会長	<p>関連計画ですでに数値目標は設定されているので、それを参考にするのがいいのではないか。</p>
事務局	<p>それらもいろいろ参考に設定します。</p>
委員	<p>タイトルが「里山計画」で本当にいいのか。計画、計画、計画が並んでいるので、普通に「里山戦略」ではだめなのかというのがある。</p> <p>この計画は「環境基本計画」の下位計画であるが、「里山の保全と活用に関する行動計画」が上にあるのも不思議な感じを受ける。これはこういうものであると言われれば、そうなのかという話だが。</p>
事務局	<p>里山計画の位置づけは、「里山の保全と活用に関する行動計画」の中に、「生物多様性戦略の策定」が施策として挙がっていることから、このような体系としています。</p>
部会長	<p>「里山の保全と活用に関する行動計画」は生物多様性の計画の中に包含されるのではないかと思われるので、確かにこの上下関係は委員のおっしゃる通り私から見ても違和感がある。</p>

委員	ただし、「三田市里山と共生するまちづくり条例」は、ソーラーパネルも含めていろいろなものが入っている。環境部局だけの管轄ではないということになる。
事務局	「三田市里山と共生するまちづくり条例」では、里山に関することや太陽光発電設備の土地利用規制も書かれています。
委員	<p>必ずしも包含されるわけではないともとれるけれど、逆に言えば、国の環境基本計画の下には環境影響評価法に関する計画も入っている。法を知っている人から、それを入れたら包含しているではないか、と言われる可能性はある。国の場合だと、先行して始まっている行動計画も、環境基本計画が2023年にスタートしたら、それに合わせて計画は、少し見直しをして改定し、環境基本計画に摺り合わせをする。</p> <p>生物多様性さんだ里山計画は、計画が2つ並んでいてかなり重複するので、計画で良いのかどうか。数値目標も出さないのであれば、あえて戦略という形で、ふわっとしたものにしておくほうが気楽ではある。ただ、市のスタンスとして、予算を付けてやることを行動計画で決めて、国からのお金で各課が共有してやるのが条例に基づく計画である。里山計画は、何をするとか、こんなことが大切と書いてあるのがほとんどで、どちらかと言えば戦略である。なおかつ、市で財政的に確保するのであれば、戦略に基づいて「生物多様性さんだ里山行動計画」にするか、上を改定して、行動計画に入れて追加するか、という政策上の建て付けにする。ほかの廃棄物行政であるとか、水処理、土木の行政の計画ならそうなることが多い。</p> <p>ほぼよく似た「計画」が並行しており、一方は条例に基づくもので、もう一方は少し条例に被るくらいで、非常にいびつな印象を受ける。おそらく、議会でも中身よりそこを言われるのではないかと。紛糾を避けたらおっしゃっていたが、そこが引っかかる。</p>
事務局	三田市里山と共生するまちづくり条例第10条の中でも生物多様性保全に努めると規定しており、計画が先行している「里山の保全と活用に関する行動計画」と同列、重複する部分が出てくる。そこで、その違いをもう少し強調したいと考えており、数ある計画の中で、これだけがなぜ戦略なのかというのが説明しにくいということがあります。
委員	<p>第1章にその違いをしっかりと書いておかなければ分からない。</p> <p>この位置づけをみると、「里山の保全と活用に関する行動計画」は「環境基本計画」に基づいていないことになるが、そんなことはない。</p> <p>一般の人向けに、説明を書いたうえで「里山戦略」にして、あるべき姿とやるべきことをざっと挙げて、この中から絞り込んでいくという、将来目標の目指すべき方向を書いたものがさんだ里山戦略か計画である。行動計画は行動なので、やると言っていることはやらなくてはならないので予算が必要で、普及啓発を通じて一般市民の方に活動していただく、企業の方にルールを守っていただくのが行動計画である。性質が全く違うので、その違いが分かるように書くのが良い。</p>
部会長	<p>委員の意見は重要で、同じように考えている。「戦略」のときは「里山の保全と活用に関する行動計画」とは違うことがわかった。今回「里山計画」になったので、既存の里山の計画とどこが違うのか、ということになる。</p> <p>名称をしっかりと区別するか、その違いがしっかりと分かるように文章で表現するか、戦略をもし使わないのであれば、「生物多様性さんだ里山計画」の「里山」をとってしまうなどの工夫が必要である。</p>

委員	P2の計画の位置づけも調整がある。総合計画が真ん中にあり、複雑な関わり方をしていて、「環境基本計画」に基づかない「里山の保全と活用に関する行動計画」などあり得ない。
部会長	「里山の保全と活用に関する行動計画」は「環境基本計画」にぶら下がっている計画ではないのか。実際のところ、どういう位置づけなのか。
委員	見ている限りぶら下がっている計画だ。これについては協議していただくように。総合計画や環境基本計画の策定のメンバーの方に違和感がないか訊いてもらい、なければそのままでもいいだろう。
事務局	いえ、いただいたご意見は検討させていただきます。
委員	第1章の「里山計画とは」は、「生物多様性さんだ里山計画が目指すところ」くらいにすれば、理念的になる。
部会長	確かに「目指すところ」とすれば、おっしゃたようなアイデアも盛り込める。
委員	「1.本計画の趣旨」に三田の自然の特徴を一通りざっくり書いて、三田の魅力から始まって、目指すところはこんなです、と書けば良い。
部会長	市民に伝えたいメッセージとしては、「三田の自然や生物多様性はすごく魅力的ですよ、それをこれからも守っていきましょう」「さらにその魅力をもっともっと高めるために市民の人たちと共創していきましょう」「活用していきましょう」「そのことによって、明るい三田の未来を創っていきましょう」そういうイメージがしっかり伝わるようなタイトルになるように。
委員	指標管理は、ここに載せる必要はないが、生物多様性国家戦略 2023 に出ているものと被るように「意識して」つくるように。国と県と市は共通の項目と指標にしておく。統一してやるところと分けるところは、はっきりとイメージしておくのが良い。
部会長	位置づけの図では、部門別関連計画の中に昨年度策定された「ゼロカーボンシティ推進計画」を追加するようお願いする。今回の里山計画と重複している部分もあり、重要である。
委員	最近公表された令和5年版環境白書は、脱炭素、ネイチャーポジティブ、アップサイクルの3つが柱である。それを工夫しながら上手くやっている象徴が、日本の中では里山であるというのが対外的な環境省のリリースの仕方である。 三田市は、里山林管理やアップサイクルの竹、木材でレクリエーションしたり、脱炭素もゼロカーボンシティの表明をしている。それらを3つ併せてやっているというのは対外的にも良いアピールになり、第1章に書いておけばそのことが示せる。アップサイクルという言葉は使わなくてもよいが、木の駅や木材資源の活用をもう少し強調されていても良い。
委員	アメリカザリガニで兵庫県だけが被害を大きく被っている項目がある。経済被害をまともに被っているのは三田市だけで、伝統的な郷土食のジュンサイで、里山の食材である。
委員	貴重な生き物を全部守り、悪い生き物をやっつける、そういう面もあるが、そういう書き方で、明るい未来の里山のイメージにつながるのかどうか。必要であるとは思いますが、それだけ強調してそれだけやれば良いとなると、里山計画全体が矮小化される。 基本方針に書いてある施策のほとんどは既にあるものばかりだが、ここに無いものを市民と一緒にやっていけないのか。何か新しいことを三田で生み出せないのか。もともとそんなに目くじら立てずに、里山の自然と共存してきた街である。今までどうでも良かったこと、ダニや蚊まで、最近は悪いと言われている。

委員	<p>できるだけポジティブなことを入れていけないか。新規でされる顕彰制度は、ごく当たり前のことを楽しくやっているような人たちを認めるようにしてほしい。無関心層にも関心を持ってもらうなら、楽しいとか儲かるとかがないと面白くない。遊びの要素がないと広がらない。川遊びや雑木林で遊ぶなどがベースになる。さんだ里山の遊び方、というのでいいのではないか。楽しくない活動に人は集まらない。</p>
部会長	<p>表現は難しいが、そういうノリが必要である。</p>
委員	<p>無関心期の人に関心を持ってもらうためという意味では、まだ硬いだろう。</p>
部会長	<p>ほかの自治体の戦略も硬いが、三田市はこれから作るなのでその辺り工夫できないものか。</p>
委員	<p>ちょっと違うというところまで踏み込むべきなのかもしれない。</p>
部会長	<p>また、書面開催のときにご意見いただきたい。 資料の中の活動団体の紹介は、みなさん実際に楽しく活動されているので、見た人がやってみたい、参加したいと思わせるような、もっと楽しさが伝わるような写真があれば良い。</p>
委員	<p>国家戦略にも 2050 年の明るい未来を描いているので、基本方針の 4 つに合わせて、「こういうビジョンでやれば、どんな 2050 年になる」という、これをやったら、「安全安心で」「高付加価値の農業が営める」「子どもたちはどこでも生き物採集ができる」「洪水なども防ぐことに貢献する」などのイメージのイラストを最初でも最後でもいいが、載せておくといいのではないか。 これをやれば、「誰でもが自然を楽しめるようなまちになるのだ」そのためにやらねばならないこと、クビアカツヤカミキリが出たら駆除しないとイケないかもしれないし、タダで健康が手に入らないのと一緒だ。ちょっとずつ気配りしていったら、「いいまちになるんだ」という図があれば、それがネイチャーポジティブな方針である。</p>
委員	<p>クビアカツヤカミキリもそうだが、悪い奴で駆除する、鬼滅の刃の鬼退治みたいにやっつけるとなるとは、心がすさんでいくのではないか。昆虫採集は目くじら立てずに楽しみとしてやれば良い。レースをして、一番大きなクビアカツヤカミキリを採った人を表彰するとか、遊び心が大事だ。撲滅とか駆除では活動自体が明るくならない、楽しくない活動に人は集まらない。あれもこれもするまでは、里山には行って遊んでいいとは思わなくなる。そこを意識することで、書き方を変えることができるかもしれない。</p>
委員	<p>第 2 章の「生物多様性の現状と課題」は、「三田市の生物多様性の現状と課題」としてはどうか。記載する順は「特徴」、「課題」、良いところは維持、課題は良くしたい、その「取り組み」のことを 3 つめに持ってくるのが良いので、並べ替えてはどうか。 無関心期の人に関心を持ってもらう、行動してもらうには、P19 の家庭での取り組みはコラムにして片付けずに、最初の 2~3 ページ目で分かるようにしておくようにするのが良い。 大阪府が「おおさか生物多様性応援宣言」の登録制度をスタートしている。 生物多様性の保全に積極的に取り組むことを宣言する府内の企業や団体を登録し、その取り組みに対して府が PR やサポートを行うものである。三田市もこのような募集をして、家庭単位、学校単位、企業でもいいから、ついてはこういうことをして下さいと記載しておけば行動に繋がるのではないか。</p>

委員	下のポンチ絵は、2030年目標が理念になっているので、理念か目標かどちらでもいいが、合わせておくように。
事務局	ここはどちらかに合わせるようにします。
委員	P29の環境学習のところは、「人を育て」という部分だと思うが、有馬富士自然学習センターやひとはくに来る子ども達は、もともと自然や生き物を好きだと思うが、都市公園を利用して、学校教育の中で、もっとその他大勢の子ども達、若い世代に対する環境教育が必要だと思うので、それを書いておいた方が良くはないか。
委員	そういう具体的なことも必要なのかもしれない。 P19の家庭でできる取組だが、こんな説教臭いことを言われたら、やらないだろう。
委員	もう少し厚みを増さないといけないだろう。
委員	例えば、P6～8に書かれていることをもう少し具体的に市民に伝えることができないものか。どこに行けば貴重な動植物やホタルが見られるのか、などが分かった方がいいのではないか。
部会長	終了時間になったが、ほかにご意見あれば、お願いしたい。
全委員	意見等なし。
部会長	今回の協議はこれもちまして終了させていただく。たくさん意見をいただきましたので、それを踏まえて素案の修正を事務局で進めていくようお願いする。
事務局	本日はいろいろなご意見をいただき本当にありがとうございました。 ご意見等を踏まえて、部会長の監修のもとに7月末に向けて修正作業を進めて、皆さまに送らせていただきます。また、最終意見の集約をして最終版を作成しますので、ご協力賜りますよう、よろしく願いいたします。